



大学・研究機関

日頃、河川や湖沼の水環境研究を行っており、2012年から小松の皆さんと共同で木場潟の有機汚濁の原因を調査しています。調査結果は、公開フォーラムなどで発信しています。ぜひ参加ください。



金沢大学 教授
(金沢大学環日本海域環境研究センター長)
長尾 誠也さん

企業

水質汚濁の原因の1つである水中の窒素、リンを吸着・除去するため、浮島を浮かべて水中につるしたグリーンピズを定期的に回収・交換する実験を行いました。現在は、土壌改良材としてのグリーンピズの利用拡大を図っています。



小松マテール株式会社 理事
木場潟浮島プロジェクト担当
茶谷 秀樹さん

多様なパートナーシップによる 水質浄化の取り組み

木場潟の環境保全に関しては、様々な団体から協力いただき、活動の輪が広がっています。その中から、活動事例の一部を紹介します。

一人ひとりの小さなアクションが
地域を創る大きな力に

市民団体

木場潟の水質浄化と生態系保全を目指しています。市民の皆さん・企業・大学・行政と連携し、誰もが気軽に参加できる活動を企画していきます。



木場潟再生プロジェクト
リーダー 土田 準さん



周辺8町の広域団体です。木場潟クリーン作戦(毎年3月第3日曜日)では、約1,200人が参加します。

木場潟を美しくする会
会長 山本 政廣さん

地域の皆さんとともに、水生生物の保護や観察などを通して、子供たちの環境教育を行っています。



木場潟公園協会
代表理事 藤田 勝男さん



シンボル「木場潟」を 未来へ

問い合わせ エコロジー推進課 ☎24・8067

カヌーの国際大会や2020年に向けた9カ国の事前合宿の決定など、世界から注目されている木場潟。2023年の北陸新幹線小松開業により、霊峰白山を望む最高の車窓景観でさらに魅力が高まります。また、水郷木場潟を次世代につなげようと、市民団体や企業、大学などが連携し、保全活動が進められています。自然、文化、交流、健康づくりの拠点機能を高めるため、市民の皆さんも一緒にできることがないか考えてみませんか。

SDGsを先取り

年間来園者は75万8,600人
(過去最多)

こまつモデルの取り組み

2023年 2022年 2020年

北陸新幹線小松開業
「最高の車窓景観」を全国にPR
東園地「里山再生」による魅力
整備(コマツ協力)

木場潟公園開園
40周年記念をお祝い

目標来園者数
100万人



目指す指標：木場潟COD[※]値
2017年 8.6mg/l → 2021年 5.0±1mg/l 以下
※COD(化学的酸素要求量)：水の汚れの程度を示す指標

2019年

世界から注目されるカヌー競
技の拠点へ
東京オリ・パラ事前合宿
9カ国決定(日本を含む)

100年ぶりにハス
の群生地が復活



水質改善が進んだことで「ニ
ホンイシガメ」(準絶滅危惧
種)と「マシジミ」(絶滅危惧
種の生息を確認

2018年

木場潟一周6.4kmを桜でつなぐ
回廊でお客様を歓迎するため、
桜を植樹

2015年 2014年

「第66回全国植樹祭」開催

木場潟浮島プロジェクト始動

2012年

水質改善に向けた金沢大学と
の連携スタート
学術的な観点による水質・
生態系調査へ

2004年

市民団体「木場潟再生プロ
ジェクト」結成
市民・企業・行政のパート
ナーシップへ

1982年頃

公園開設を機に、住民主体の
清掃活動や家庭の排水対策が
本格化